

～ 社 会 教 育 の 夢 ～

35年前、ふるさと創生事業で天文科学館を建設してもらった。

これは博物館に分類され、社会教育施設になる。

観望会をしていると、ときどき「宇宙人って、いるんですか？」と問われることがある。

宇宙人の定義は、通信手段として電波を自在に扱えるかどうかにある。

NHKの児童番組に「プリンプリン物語」というのがあったが、そのテーマソングを思い出して欲しい。

『 ♪ あなたも わたしも うちゅうじん … ♪ 』

スマホを操る人が宇宙人で、持たない人はそうではない、というわけではない。

少し前、尾鷲市でJAXAのタウンミーティングが開かれた。

講演後の質問がなかったらいけないから、と市から質問者のサクラを依頼された。

話されたのは有名な電波天文学者 平林 久 博士だった。

電波天文学というのは、宇宙の成分を研究する傍ら、可視光の延長の電波をコントロールしている、高い知的文明生物（= 宇宙人）の搜索も行っている。

つまり電波天文学者のほとんどが、宇宙人ハンターを兼ねているとあってよいだろう。

「はい」と手を上げて、

「… 現在、宇宙人の研究はどの辺まで進んでいるのでしょうか？

ここだけの話しでもよいので、教えてください。 … 」

愚問じゃなかったかと心配したが、博士は丁寧に説明してくれた。

後日、資料を読んでいて驚いた。

イギリスへ行かれたとき、あのホーキング博士に、まったく同じことを質問されていたのだった！

長い間、星を眺めていると、私たち人類は、壊れやすく非常に稀な生き物であることがわかってくる。

天文学者は『私たちは孤独じゃない』(We are not alone) というけれど、まだお隣さんは見つかっていない。

しかし、広い広い宇宙を想像しながら物事を考えていると、よいアイデアが浮かぶことが多い。

前々から思っているのだが、先般、伊勢で開かれたサミットのような会議を、望遠鏡を囲んで開いたらどうだろうか。

関税に固着する人の考え方に、変化があるかもしれない。